conectiv

4入出力USB DJオーディオ・インターフェイス

ユーザーズ・マニュアル

synchroscience by M-AUDIO

はじめに . . . 3
製品パッケージ内容 . . . 4
Conectivの特徴 . . . 4
最低システム必要環境 . . . 5
オペレーティング・システム . . . 5
Windows . . . 5
Macintosh . . . 5
ハードウエア . . . 5
Windows* . . . 5
Macintosh* . . . 5
ドライバ・ソフトウエアのインストール . . . 6
コントローラとコネクタ . . . 6
トップ・パネル . . . 6
リア・パネル . . . 7
フロント・パネル . . . 7
ハードウエアの接続 . . . 8
Conectivを使用する . . . 9
Conectivのオーディオ・ルーティング（流れ）を理解する . . . 9
ミックス・ノブ . . . 10
ヘッドフォン・モニタリング . . . 11
ConectivをSynchroScience Torqやその他のDJソフトウエアと使用する . . . 11
コントロール・バイナルまたはCDを使用してDJソフトウエアをコントロールする . . . 11
コンピュータをエフェクト・プロセッサとして使用する . . . 12
スタンドアロンのフォノ・プリアンプ . . . 12
スタンドアロンのマイクロフォン・アンプリファイヤ . . . 12
コントロールパネル・ソフトウエア . . . 13
PC : . . . 13
Mac : . . . 13
トラブルシューティング . . . 14
スタンドアロン・モード . . . 14
Conectivをコンピュータと使用している場合 . . . 14
製品仕様 . . . 16
製品保証 . . . 17
保証規定 . . . 17
ユーザー登録 . . . 17

はじめに

1

SynchroScienceのConectiv　USBオーディオ・インターフェイスをお買い上げ頂きまして誠に有り難うございます。Conectivは、ユニバーサル・シリアル・バス（USB）の利便性と信頼性を活用しステージでのライブやスタジオでも柔軟にご使用頂けるインターフェイスです。スマートで軽量/ポータブルなデザインなため、アクティブなコンピュータ・ベースのDJやミュージシャン、プロデューサーにとって移動の際の持ち運びにも最適です。Conectivは、USBケーブル1本でMacやPCに接続できるので、コンピュータを開いてカードをインストールするなど面倒な作業は必要ありません。また、コンピュータから電源が供給されるため、外部電源を使用する必要がなくどのような場所でも簡単にレコーディング/ミックスが可能になります。

Conectivは、コンピュータ・ベースのDJやプロデューサー、アーティストを念頭においてデザインされています。高品位なコンポーネント、柔軟なオーディオ・ルーティング、簡単な操作性のインターフェイスを装備するConectivは、コンピュータのDJ/DAWソフトウエアと最適に使用できます。Conectivは、出力チャンネル4系統を再生中に入力チャンネル4系統（ステレオ2ペア）を同時録音することができます。Conectivの1/4入力とRCA入力は、マイク/ライン/フォノ・レベルをサポートしダイナミック・マイクロフォン、ライン・レベルのソース（CDやMP3プレイヤ等）やターンテーブルを接続することができます。このUSBオーディオ・インターフェイスは、低レイテンシーでコンピュータとオーディオ・シグナルを送受信し、高出力のヘッドフォン出力を搭載しているためより騒々しいクラブやステージでもDJやパフォーマーがサウンドをモニターすることができます。これら全ての機能によりConectivは音楽の録音/プロデュース/パフォーマンスに最適なツールとなります。

DJ、ミュージシャン、デジタル・レコーディングの経験が豊富な方も、本ユーザーガイドをよくお読みになりConectivの機能性を理解するのにお役立て下さい。また、DJ/DAWソフトウエアの取扱説明書を参照しConectivをDJ/DAWソフトウエアで使用する方法を確認して下さい。Conectivの実用的な知識を学習することでConectivをより楽しくお使い頂くことができます。

Conectivインターフェイスには、Conectivとシームレスに統合するようにデザインされた高度なDJソフトウエアSynchro ScienceのTorqが同梱されています。Conectivは、ASIOまたはCore Audio対応のDJ/DAWソフトウエア全てと使用することができますが、本ユーザーガイドにはTorqを使用した場合の用例や画像が含まれます。本ユーザーガイドの用例を理解するためにもTorqソフトウエアをインストールすることを推奨します。

製品パッケージ内容

2

Conectiv製品パッケージには以下の製品が含まれます：

- Conectiv USBオーディオ・インターフェイス1台
- SynchroScience CD-ROM（ドライバ、コントロールパネル・ソフトウエア、関連書類、Torq DJソフトウエアを含む）1枚
- USBケーブル1本

Conectivの特徴

3

Conectivの特徴は以下の通りです：

- USB 1.1接続による4入出力のオーディオ・ストリーミング
- RCA入力端子はフォノ/ライン・レベルのソースをサポート
- 1/4マイクロフォン入力端子には専用ゲイン・コントロール・ノブ装備
- オーディオ入力とDJ/DAWソフトウエア出力をブレンドするミックス・ノブ装備
- 1/4ヘッドフォン出力には高出力アンプリファイア装備
- ヘッドフォン・ソースをブレンドするキュー・ノブ装備
- 様々なヘッドフォン・モニタリングのオプションを提供するキュー・スプリット・スイッチ装備
- マスター出力レベル・ノブ装備
- DC電源アダプタ端子装備（USBバス電源を使用しない場合/DC電源アダプタは別売）
- ASIO（Windows XP）とCore Audio（Mac OS X 10.3.9/10.4.7以降）ドライバをサポート

最低システム必要環境

4

オペレーティング・システム

Windows

Conectivは、Windows XPのサービスパック2以降をサポートします。Windows 2000/98/MEはサポートされていません。Windowsアップデートのウエブサイトを参照しMicrosoft社が提供する最新アップデータ/修正パッチがインストールされていることを確認して下さい。

Macintosh

Conectivは、Mac OS X 10.3.9/10.4.7以降をサポートします。それ以前のMac OSはサポートされていません。

ハードウエア

Windows*

- Pentium III 500MHz（ノートパソコンの場合これ以上の高速なCPUが必要です）
- 256MB以上のRAM
- Windows XP（SP2）

  （Windows 2000/98/ME/NTはサポートされていません）

Macintosh*

- Macintosh G3**600/G4**667MHz（ノートパソコンの場合これ以上の高速なCPUが必要です）
- 256MB以上のRAM
- Mac OS X 10.3.9/10.4.7以降（これ以前のMac OSはサポートされません）

**Conectivと併用するDJ/DAWソフトウエアの最低システム必要環境が以上の条件より高い場合があります。SynchroScienceでは、ご使用になるDJ/DAWソフトウエアの最低システム必要環境をご確認されるよう推奨します。*

***CPUアクセラレータ・カード搭載機はサポートされていません。USB端子がコンピュータに装備されている必要があります。*

ドライバ・ソフトウエアのインストール

5

Conectivを適切に操作するためには、別途ドライバ・ソフトウエアをインストールする必要があります、同梱のクイックスタートガイドを参照してドライバ・ソフトウエアのインストールを完了して下さい。

ドライバ・ソフトウエアのインストールが完了したら、Conectivとオーディオ・シグナルを送受信するようDJ/DAWソフトウエアを設定する必要があります。設定方法については、DJ/DAWソフトウエアの取扱説明書を参照して下さい。

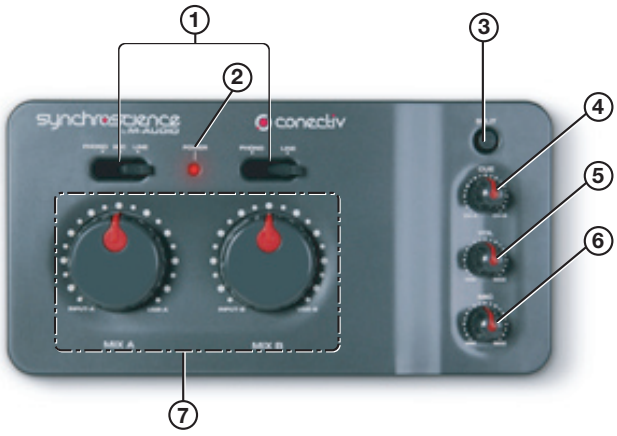
注意：*Windows XPとMac OS Xでは、ドライバをインストールする前にConectivをコンピュータへ接続してしまうと、Conectivが一般的なUSBオーディオ機器として認識されてしまいます。この場合では、Conectivの一部の機能へアクセスできないためドライバ・ソフトウエアをインストールせずに使用することは推奨しません。コンピュータへConectivが接続されている場合には、ドライバ・ソフトウエアのインストールを開始する前に接続を外して下さい。*

コントローラとコネクタ

6

トップ・パネル

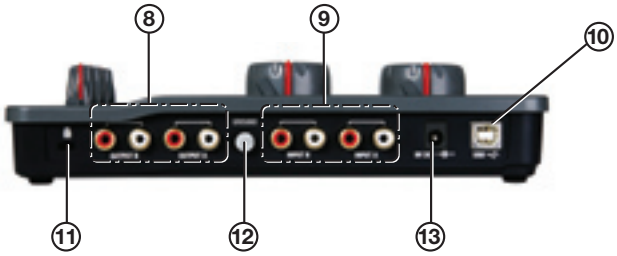
1. **ソース・セレクタ（PHONO、MIC、LINE）** – これらのスイッチは、Conectivの各ステレオ・チャンネルの入力ソースを選択します。ステレオ・チャンネルは、両方ともフォノとライン・レベルの入力に対応します。但し、チャンネルAには追加のマイク入力が装備されているので、ダイナミック・マイクロフォンをマイク入力端子（15）に接続することもできます。
2. **パワー・インジケータLED（POWER）** – この赤色のLEDは、Conectivに電源が供給されると点灯します。
3. **スプリット・スイッチ（SPLIT）** – このスイッチは、ヘッドフォン出力のモニタリングをノーマル・モードとスプリット・モードに切換えます。このスイッチが押された状態ではスプリット・モードが有効になり、スイッチが押されていない状態ではノーマル・モードでモニタリングすることができます。この2つのモードについては、Chapter 8の「ヘッドフォン・モニタリング」を参照して下さい。
4. **キュー・ノブ（CUE）** – Conectivには、2つのステレオ・チャンネルが装備されています。このノブでは、ヘッドフォンでモニターする各チャンネルのシグナルをブレンドする量を調整します。このノブについては、Chapter 8の「ヘッドフォン・モニタリング」を参照して下さい。
5. **ヘッドフォン・ボリューム・ノブ（VOL）** – このノブは、ヘッドフォン出力のボリュームをコントロールします。
6. **マイク・ゲイン（MIC）** – このノブは、マイクロフォン入力のゲイン（ボリューム）をコントロールします。
7. **ミックス・ノブ（MIX）** – これらのノブは、各ステレオ出力のソースを設定することができます。これらのノブについての詳細は、Chapter 8の「ミックス・ノブ」を参照して下さい。



リア・パネル

8. **RCA出力端子（OUTPUT A、OUTPUT B）** – Conectivのメインの出力端子です。DJミキサー、アンプを内蔵したスピーカー、その他のオーディオ機器をこれらのRCA端子へ接続します。これらの出力端子のオーディオ・ソースは、ミックス・ノブ（7）で設定します。

9. **RCA入力端子（INPUT A、INPUT B）** – これらのRCA入力ペアは、CDプレイヤーやターンテーブルを含む様々な機器からのステレオ・シグナルを受信します。ソース・セレクタ・スイッチ（1）を使用してこれらの入力ペアに接続する機器のタイプ（種類）を選択します。



10. **USB 1.1端子（USB）** – USB端子は、コンピュータとデジタル・オーディオ・シグナルの送受信とConectivに電源を供給します。コンピュータのUSB端子に接続します。

11. **Kensingtonロック用端子** – この端子には、Kensington社の盗難防止ケーブルを接続します。

12. **アース端子（GROUND）** – ターンテーブルを併用する場合には、この端子にアース線を接続します。

13. **DC電源アダプタ端子（9V DC）** – Conectivは、別売のDC電源アダプタを使用して電源供給することもできます。コンピュータがConectivへ充分なUSBバス電源を供給できない場合やConectivを単体のデュアル・フォノ・プリアンプとして使用する場合にのみ、この電源端子を使用します。

フロント・パネル

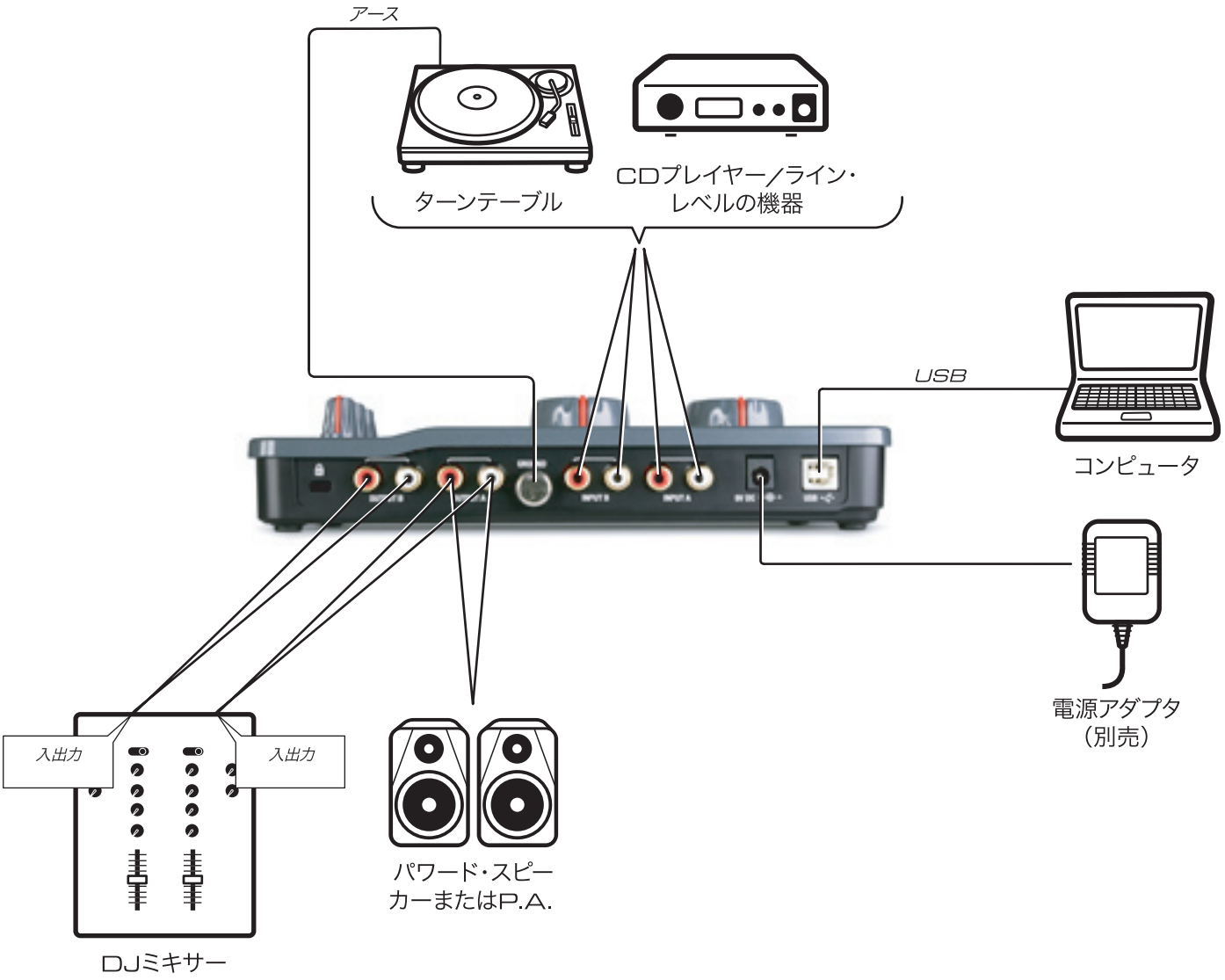
14. **ヘッドフォン端子** – この1/4出力端子には、ヘッドフォンを接続します。出力のボリューム・レベルは、ボリューム・ノブ（5）でコントロールし、ソースはキュー・ノブ（4）で決定します。

    この出力端子にヘッドフォンを接続する場合には注意が必要です。Conectivは、騒々しいクラブやステージでもサウンドをモニターできるようにデザインされた非常にパワフルなヘッドフォン・アンプリファイヤが搭載されています。高出力であるため、出力されるサウンドが極端に大きくなることがあります。

15. **1/4マイクロフォン入力端子** – この入力端子は、1/4TSプラグを装備する標準的なダイナミック・マイクロフォンを接続します。この入力端子のゲイン・レベルは、マイク・ノブ（6）でコントロールします。

ハードウエアの接続

7



1. ConectivのRCA出力端子をアンプ、パワード・モニター、ミキサー等に接続します。
2. ステレオ・ヘッドフォンをConectivのフロントパネルに装備されたフォン出力端子に接続します。
3. マイクロフォンをConectivのフロントパネルに装備された1/4マイクロフォン入力端子に接続します。
4. ターンテーブルまたはライン・レベルの機器をConectivのRCA入力端子に接続します。
5. ConectivのUSB端子をMacまたはPCのUSB端子に付属のUSBケーブルで接続します。
6. コンピュータと併用せずConectivのスタンドアロン・モードを使用する場合やコンピュータがConectivに充分なUSBバス電源を供給できない場合には、リアパネルに装備されたDC電源アダプタ端子（13）へ別売の電源アダプタを接続します。電源アダプタは、9V DC 500mAのものを使用して下さい。

ターンテーブルを併用する場合は、ターンテーブルのアース線をConectivのリアパネルにあるアース端子（12）に必ず接続して下さい。

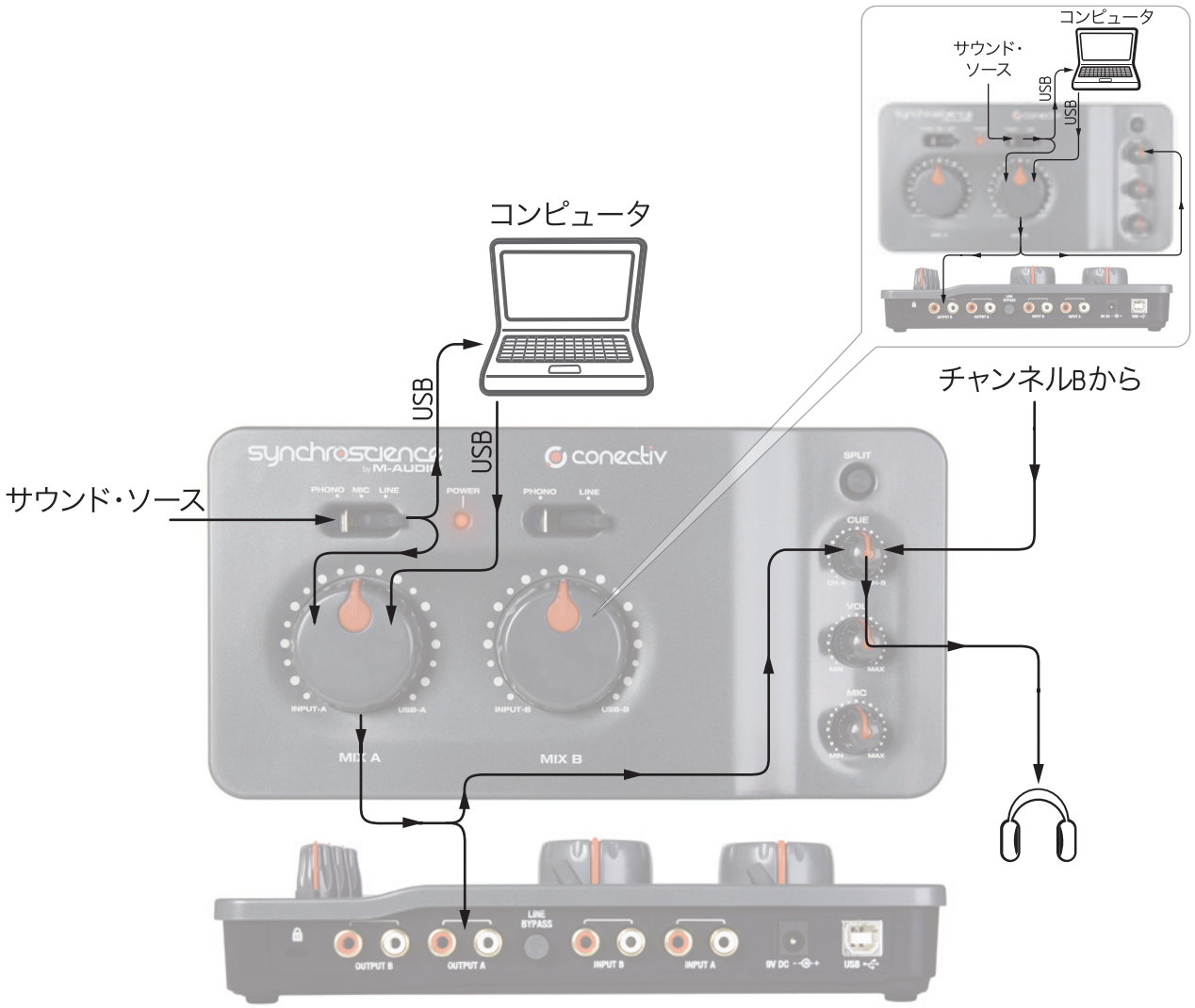
Conectivを使用する

8

Conectivは、様々な用途に使用することができますので以下に使用方法の数例を紹介します。このチャプターの最初のセクションでは、シグナルがどのようにインターフェイスを通過するかの概観を説明し、その後で具体的な用途や有効なコツ等を紹介します。それ以外にご不明な点があれば、まずM-AudioのウエブサイトのFAQやチュートリアルを参照して下さい。

Conectivのオーディオ・ルーティング（流れ）を理解する

Conectivの柔軟なオーディオ・ルーティングにより様々な状況で使用することができます。以下の図を参照しシグナルがどのようにConectivを通過するかを確認して下さい：



サウンド・ソースからの入力シグナルAの動きを見ると、最初にソース・セレクタ・スイッチ（1）に入ります。このスイッチは、入力感度を設定しどの入力ソース（マイク、ライン、フォノ）がConectiv内で次の段階に移動するのかを決定します。

次に、シグナルは2つに別れ同時に2つの場所に送信されます。片方のシグナルはUSB端子を経由してコンピュータへ送信されDJ/DAWソフトウエアへ送られます。もう一方のシグナルはミックス・ノブA（7）に送信されます。このノブの機能は、後にこのチャプターで説明します。現時点で新たなオーディオ・ソースであるDJ/DAWソフトウエアの出力Aがシグナル・パスに入力されます。このシグナルは、USB端子を経由してConectivへ送られ（前述のオーディオ入力シグナルAと同様に）ミックス・ノブAに送信されます。

ミックス・ノブAを使用してオーディオ・ソース間（入力シグナルAとDJ/DAWソフトウエアの出力シグナルA）でクロスフェードすることができ、ブレンドされたシグナルをConectivのリア・パネルに装備されたRCA出力ペアA（8）へ送信します。

同時に、ミックス・ノブAからのブレンドされたシグナルはキュー・ノブ（4）にも送信されます。

これと平行して入力シグナルBは専用のシグナル・パスで同じ段階を通過し、またミックス・ノブBからのブレンドされたシグナルをキュー・ノブ（4）に送信します。キュー・ノブを使用してチャンネルAとチャンネルBをブレンドすることができ、DJ向けの特別な「ヘッドフォン・ミックス」を作成することができます（この機能については、このチャプターで後に詳しく説明します）。

ここまでで、Conectivの入力から出力までの全シグナル・パスを解説しました。インターフェイスを通してシグナルがルーティングされる様々な方法について理解を深めておかれることを推奨します。シグナルがConectiv内で実際どのようにルーティングされるかを理解しておくと、Conectivをどんな状況でも適切に使用でき特定の設定を記憶しておく必要がありません。

ミックス・ノブ

ミックス・ノブは、Conectivの柔軟性に主要な役割を果たします。これらのノブは、クロスフェーダとして機能し、入力シグナル（マイク、フォノ、ライン）と各チャンネルのDJ/DAWソフトウエアの出力を融合させます。言い換えると、ノブを一番左に回した状態（チャンネルAまたはチャンネルBと書かれた位置）ではマイクロフォン、フォノ、ライン・レベルの入力のいずれかのみがConectivの関連する出力端子から聞くことができます。ノブを一番右に回した状態（USB-AまたはUSB-Bと書かれた位置）では、DJ/DAWソフトウエアの出力シグナルのみを聞くことができます。ミックス・ノブを中央の位置に設定すると、ライン入力とコンピュータの出力は同等の割合で聞くことができます。

場合によっては、ミックス・ノブを一番右に回しておく必要があります。例えば、コンピュータから再生している音楽をミキシングする場合、コンピュータの出力を聞くためにはこれらのノブを一番右に回しておく必要があります。また、ターンテーブルまたはCDプレイヤーを使用してDJプレイをする場合等、入力シグナルを聞くためにはノブを一番右に回しておく必要があります。更に、このノブを使用して入力シグナルとDJ/DAWソフトウエアの出力を交互にブレンドする場合もこのノブを使用する必要があります。例えば、コンピュータをDJエフェクト・プロセッサ（後述）として使用する場合、このノブはエフェクトのウエット/ドライを調節するノブとして機能します。

ヘッドフォン・モニタリング

Conectivでは以下に説明する通り、DJ向けに2種類のヘッドフォン（またはキュー）・モニタリングのオプションを提供します。スプリット・スイッチ（3）を使用して使用するモードを選択します。スイッチを押してスプリット・モードを有効にするか、スイッチを押していない状態で通常のモニタリング・モードのままにします。

- **ノーマル・モード：**このモードでは、ヘッドフォンにチャンネルAとチャンネルBがステレオで聞こえてきます。キュー・ノブ（4）でチャンネルAとチャンネルBのバランスを決定します。つまり、キュー・ノブを一番左に回した状態ではチャンネルAだけが聞こえます。逆に、キュー・ノブを一番右に回した状態ではチャンネルBだけが聞こえます。ノブを中央の位置に設定すると、両方のチャンネルが同じ割合で聞こえてきます。
- **スプリット・モード：**スプリット・モードでは、チャンネルAがモノラルに集約され左のヘッドフォンから聞こえ、チャンネルBがモノラルに集約され右のヘッドフォンから聞こえます。キュー・ノブ（4）を使用してノーマル・モードと同様の方法で2つのチャンネルのバランスを調整します。このキューイング・スタイルは、ビート・マッチングしている間にどのトラック（右または左）の拍子がズレているのかを簡単に見分けることができます。

  どちらのモードを選択するかは個人の好みによります。ノーマル・モードが最適だと言うDJもいれば、スプリット・モードの方が好ましいというDJもいます。

ConectivをSynchroScience Torqやその他のDJソフトウエアと使用する

Conectivは、SynchroScienceのTorqやNative InstrumentsのTraktor等の一般的なDJソフトウエアとシームレスに統合して理想的なハードウエア・インターフェイスを提供します。これらのソフトウエアは、内部モード（ミキシングとキューイングがソフトウエア内で操作）または外部モード（ミキシングとキューイングは外部DJミキサーを使用）のいずれにも設定することができ、Conectivはどちらの設定でも使用することができます。

- **内部モード：**ソフトウエアが内部モードに設定されている時、マスター出力はConectivの片方のステレオ・チャンネルに送信され、もう一方のステレオ・チャンネルはDJのヘッドフォン（次のソングのキュー・アップのために使用）からのみ聞くことができます。この場合、ミックス・ノブは一番右の位置に設定し、DJソフトウエアの出力が聞こえるようにします。キュー・ノブは、メインの出力（聴衆に聞こえるチャンネルA）とキュー出力（ヘッドフォンでのみ聞こえるチャンネルB）をブレンドすることができます。
- **外部モード：**ソフトウエアが外部モードに設定されている時、外部DJミキサーを使用してミキシングやキューイングを操作しながらソフトウエアで音楽を再生することができます。この場合、ソフトウエアはConectivのチャンネルAとチャンネルBの両方で音楽を再生します。これらのチャンネルはDJミキサーで個別のチャンネルへ送信され、そこでミキシングとキューイングを操作します。この設定ではソフトウエアの出力を聞くために両方のミックス・ノブを一番右に設定しておく必要があります。

コントロール・バイナルまたはCDを使用してDJソフトウエアをコントロールする

DJソフトウエアが標準的なオーディオ・インターフェイスで特別なコントロール・バイナルまたはCDをサポートし、オーディオファイル再生をコントロールできる場合、ターンテーブルまたはCDプレイヤーをConectivのRCA入力端子に接続し、ソース・セレクタ・スイッチをフォノまたはCDに設定して、ミックス・ノブを一番右に設定します。ミックス・ノブを一番右に回しておくのは、レコードやCDに含まれる実際のシグナルではなくコンピュータの出力だけが聞こえるための重要な設定です。

DJソフトウエアでこれらのコントロール・シグナルを操作できるよう設定しておく必要があります。設定方法についてはソフトウエアの取扱い説明書を参照して下さい。

注意：*コントロール・バイナルまたはコントロールCDを使用する場合、ターンテーブルまたはCDプレイヤーの左右のチャンネル出力がConectivの左右の入力に正確にルーティングされていることを確認して下さい。チャンネルが逆になるとTorqは音楽を逆再生します。*

コンピュータをエフェクト・プロセッサとして使用する

USBを利用して4チャンネルのオーディオを同時に送受信できるConectivは、コンピュータをパワフルなエフェクト・プロセッサとして使用することができます。これらは、Conectivを通してオーディオ・ソース（ターンテーブルまたはCDプレイヤー）をコンピュータのDJ/DAWソフトウエアのエフェクトへ送信することにより実行できます。エフェクト・シグナルは、ミックス・ノブを使用してConectivの出力パスへ戻します。特にConectivの各チャンネルに全く異なるエフェクトを適用できるため、DJの多くはこの機能がパフォーマンス中に使用することのできる新たな面白いエフェクトの宝庫であると感じています。

最初に、ターンテーブルやCDプレイヤーをConectivのRCA入力端子に接続します。次にRCA出力端子をDJミキサー、パワード・スピーカー、その他の機器に接続します。コンピュータでTorq等のVSTプラグインをリアルタイムでプロセスできる任意のASIO、WDM、CoreAudio対応のソフトウエアを起動します。Conectivの入力端子がTorqの入力にルーティングされ、Torqの出力がConectivの出力にルーティングされていることを確認します。Torqの「ライン」入力設定を有効にします（この機能についてはTorqの取扱い説明書を参照して下さい）。最後にTorqに搭載のエフェクトを有効にするか、サードパーティのVSTエフェクト・プラグインをロードします。

コンピュータではオーディオ・ソースをプロセスでき、ミックス・ノブは選択したエフェクトの「ウエット/ドライ」のコントローラとして動作します。ミックス・ノブを一番左まで回すと、ターンテーブルまたはCDプレイヤーのソースだけが聞こえ、ミックス・ノブを一番右まで回すと、エフェクトのかかったシグナルだけが聞こえます。ミックス・ノブを中央の位置に設定すると、ソース・シグナルとエフェクトのかかったシグナルは同等の割合でブレンドされます。

スタンドアロンのフォノ・プリアンプ

Conectivは、デュアル・フォノ・プリアンプとしてスタンドアロン・モード（コンピュータ不使用）で機能します。この場合、ターンテーブルをConectivのRCA入力端子に接続しConectivの出力端子をアンプ、パワード・スピーカー等その他の機器に接続するだけです。

ミックス・ノブが一番左の位置にあり、ソース・セレクタ・スイッチ（1）がPhono（フォノ）に設定されていることを確認します。この設定では、ConectivがUSBバスまたはDC電源入力端子から電源供給を受けている必要があります。

スタンドアロンのマイクロフォン・アンプリファイヤ

Conectivを単一チャンネルのマイクロフォン・プリアンプとして使用することもできます。ダイナミック・マイクロフォンをConectivの1/4マイクロフォン入力端子に接続し、ConectivのチャンネルA出力端子にミキサー、レコーダー等の機器を接続するだけです（チャンネルBはこの場合に使用しません）。

チャンネルAのミックス・ノブが一番左の位置に設定され、チャンネルAのソース・セレクタ・スイッチ（1）がMic（マイクロフォン）に設定されていることを確認します。マイクロフォン・ノブ（6）はマイクロフォンの入力ゲインをコントロールします。

この設定では、ConectivがUSBバスまたはDC電源入力端子から電源供給を受けている必要があります。

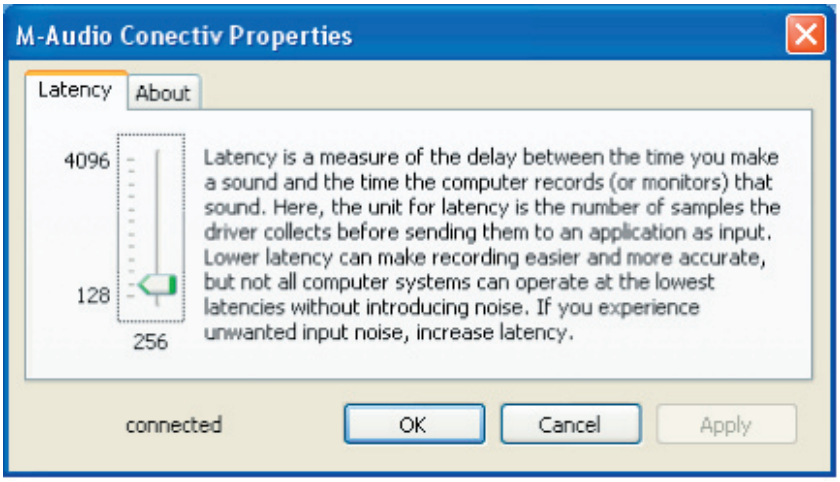
コントロールパネル・ソフトウエア

9

Conectivのコントロールパネル・ソフトウエアは簡単で分かりやすくデザインされています。

PC :

PCで使用する場合、Conectivのオーディオのバッファ・サイズは「Latency（レイテンシー）」のタブに表示され、オーディオ・ドライバやConectivのファームウエア・バージョン等のその他の情報は「About（アバウト）」のタブに表示されます。オーディオのバッファ・サイズを調節するには、スライダをドラッグして「Apply（適用）」ボタンを押すだけです。このパラメータは、DJ/DAWソフトウエアが起動している時には変更できないことに注意して下さい。



Mac :

Macで使用する場合、コントロールパネルはオーディオ・ドライバやConectivのファームウエア・バージョン、ソフトウエア・コンポーネントのバージョンと、M-Audioウエブサイトの各セクションへのリンクが表示されます。バッファ・サイズは、DJ/DAWソフトウエアで変更します。

トラブルシューティング
10

Conectivは、プロフェッショナルなクオリティのコントローラで様々な環境においてテストが重ねられています。しかしながら、徹底的なテストにも関わらず特定の条件下では、予想がつかない事態が生じる場合もあります。このセクションでは、よくある共通の問題について解決策を提供します。最初に、Conectivをスタンドアロン・モードで使用する場合、次に、Conectivをコンピュータに接続して使用する場合に起こりうる問題について説明します。

スタンドアロン・モード

Conectivをスタンドアロン・モードで使用していて問題が生じた場合：

- Conectivに電源が供給されていて、電源LEDが赤く点灯していることを確認します。スタンドアロン・モードでは、ConectivはUSBバスまたはDC電源入力端子から電源を供給されている必要があります。
- ミックス・ノブが一番右の位置に設定されていることを確認します。スタンドアロン・モードでは正確なオーディオ・ルーティングと最適なサウンド・クオリティを得るためにこれらのノブを常に一番右の位置に設定します。
- オーディオ・ソース（ターンテーブル、CDプレイヤー、マイクロフォン等）がConectivに適切に接続されていることを確認します。
- 入力ソース・セレクタ・スイッチが正確に設定されていることを確認します。
- 音楽ソースが適切なシグナルを出力していることを確認します。
- アンプ、パワード・スピーカー等のオーディオ出力先の機器が正確に動作していることを確認します。

Conectivをコンピュータと使用している場合

初めに、ConectivをPCまたはMacと使用している場合、コンピュータに複数のUSB機器を接続するのはできる限り避けることを推奨します。USBは、DJ/DAWソフトウエアに適した信頼できるプロトコルですが、DJ/DAWソフトウエアはコンピュータのプロセッサやUSBバスに相当な負担をかけます。一つのUSB端子に複数のUSB機器を接続することは理論的に可能ですが、それによりお使いのハードウエアやDJ/DAWソフトウエアに複雑な問題を引き起こすことがあります。

接続されているUSB機器の数を減らしてもConectivでの問題が解決しない場合は、以下の項目について確認して下さい：

- Conectivのドライバが適切にインストールされていることを確認します。
  - Windows XPの場合、コントロール・パネルからシステムのアイコン（カテゴリー・ビューではパフォーマンスとメンテナンスの下）をダブルクリックします。
  - ハードウエアのタブを選択しデバイス・マネージャーのボタンをクリックします。
  - サウンド、ビデオ、ゲーム・コントローラの横にある「+」のサインをクリックし、リストから「Conectiv」を検索します。リスト中でこれらのいずれかの横に「?」または「!」マークが付いていれば、ドライバ・ソフトウエアを再インストールする必要があります。

- DJ/DAWソフトウエアがConectivを使用するよう適切に設定されていることを確認します。DJ/DAWソフトウエアのオーディオ設定のページを開き、ConectivのASIO、WDM（Windows環境）またはCore Audio（Macintosh環境）ドライバが選択されていることを確認します。
- ミックス・ノブが一番右の位置に設定されているとコンピュータの出力をミュートするため、各チャンネルのミックス・ノブが一番右に設定されていないことを確認します。
- オーディオの接続端子やケーブルをダブル・チェックし、全てが正しく接続されていることを確認します。
- アンプまたはパワード・スピーカーが正常に動作していることを確認します。

Conectivのオーディオにポップやクリック等のノイズが聞こえる場合：

- 入力レベルと出力レベルが高すぎないことを確認します。レベルが高過ぎるとディストーションやクリッピングの原因になります。
- バッファ・サイズを大きくしてみます。バッファ・サイズを大きくすると、オーディオのレイテンシーは多くなりますが、システム・パフォーマンスは向上するため多くのクリッキングやポップのノイズの問題は解消されます。オーディオ・インターフェイスまたはDJ/DAWソフトウエアの取扱説明書を参照して下さい。
- 全てのオーディオ・ケーブルが良好な状態で適切に接続されていることを確認して下さい。

製品仕様

11

特記が無い限り16-bit 48kHzサンプリング・レート時

デジタル・オーディオ・インターフェイス技術仕様	
マイク入力（A/D）	
入力インピーダンス	340KOhms
最大出力レベル	+4.1 dBu （1.243 Vrms） @ 最小ゲイン時
SNR	-98 dB, A-weighted
ダイナミックレンジ	98 dB, A-weighted
歪み率	0.00686 % （-83.3 dB） @ -1 dBFS, 1 kHz
周波数特性	20 Hz to 20 kHz, +/- 0.2 dB @ 48 kHz sample rate
プリアンプ可変ゲイン	>25 dB
フォノ入力（A/D）	
入力インピーダンス	48KOhms
EQ	RIAA curve
ゲイン	43 dB
ライン入力（A/D）	
入力インピーダンス	48k Ohms
最小ゲイン時の最大入力レベル	+10 dBV （3.162 Vrms）、アンバランス
チャンネル間のクロストーク	■ -100 dB @ 1 Khz
SNR	-97 dB, A-weighted
ダイナミックレンジ	97 dB, A-weighted
歪み率	0.00557 % （-85.1 dB） @ -1 dBFS, 1 kHz
周波数特性	20 Hz to 20 kHz, +/- 0.2 dB @ 48 kHz sample rate
ライン出力（D/A）	
出力インピーダンス	100 Ohmsアンバランス
最大出力レベル	+11.4 dBV （3.711 Vrms）、アンバランス
チャンネル間のクロストーク	< -109 dB @ 1 Khz
SNR	-100 dB, A-weighted
ダイナミックレンジ	95 dB, A-weighted
歪み率	0.00390 % （-88.2 dB） @ -1 dBFS, 1 kHz
周波数特性	20 Hz to 20 kHz, +/- 0.1 dB @ 48 kHz sample rate
ヘッドフォン出力	
最大出力	0 dBV （1 Vrms, 2.8 Vpp） into 30-ohms
動作範囲	16 to 80 ohms

製品保証

保証規定

エムオーディオでは安全上のご注意に基づいて適切に使用されている場合に限り、本製品をお買い上げいただいた日より一年間は保証期間となり修理は無償で行います。しかしながら、不適切な使用方法による破損の場合、ご購入者が所有していない場合、エムオーディオでのユーザー登録がお済みでない場合などは保証の対象となりません。但し、電源アダプタやケーブルなどの付属品は、適切な使用の結果不具合が生じた場合でも保証対象には含まれません（初期不良の場合は除く）。お使いの製品に対応する保証規定はwww.m-audio.jp/warrantyでご覧下さい。

エムオーディオへ製品を送付する場合には、事前にエムオーディオのRA（Return Authorization）番号を取得する必要があります。製品のRA番号を取得するには、エムオーディオへご連絡頂ければ、エムオーディオのカスタマーサービスが症状などをお伺いしエムオーディオへ製品の送付が必要と判断した場合にRA番号を発行させて頂きます。製品のRA番号を取得後、具体的な症状や送付理由を書面に記述し、製品を保護する安全な梱包を施した上、外装パッケージにRA番号を明記しM-Audioまで送付下さい。製品の修理には発送時の送料、返却時の送料と発生し得る手数料はご購入者の負担となります（初期不良の場合は除く）。

ユーザー登録

エムオーディオへお問い合わせ頂く場合には、エムオーディオでのユーザー登録を完了しなければ製品保証や技術的なサポートを受けることができません。ユーザー登録を行うには、次の2つの方法があります。環境に合わせた方法でユーザー登録を行って下さい。1.）コンピュータで（一般的なWebブラウザ）エムオーディオWebサイトへアクセスできる方：エムオーディオ　オンラインユーザー登録ページhttp://web.m-audio.jp/register/にて、必要事項を入力して送信して下さい。2.）携帯電話でエムオーディオWebサイトへアクセスできる方：エムオーディオ　モバイルサイトのオンラインユーザー登録ページhttp://web.m-audio.jp/mobile/にて、必要事項を入力して送信して下さい。（注意：ユーザー登録完了の御案内は行っておりませんのでご了承下さい。）

M-AUDIO Conectiv
Tested to comply with FCC standards
FOR HOME OR STUDIO USE

N382

© 2006 Avid Technology, Inc. 無断複写、転載を禁じます。製品の特徴、仕様、システム環境条件、在庫状況は予告無く変更になる場合があります。AvidとM-AudioとConectivとSynchroScienceとTorqはAvid Technology, Incの商標または登録商標です。ここに記載されているその他全ての商標または登録商標はそれぞれの所有者に属します。

警告：*この製品には、米国カリフォルニア州においえて癌、先天性異常、生殖異常の原因とそいて知られる鉛を含む化学物質が含まれます。****ご使用後は手を洗って下さい。***

M-Audio USA
5795 Martin Rd., Irwindale, CA 91706

Technical Support

web:	www.m-audio.com/tech
tel (pro products):	(626) 633-9055
tel (consumer products):	(626) 633-9066
fax (shipping):	(626) 633-9032

Sales

e-mail:	sales@m-audio.com
tel:	1-866-657-6434
fax:	(626) 633-9070

Web www.m-audio.com

M-Audio U.K.
Floor 6, Gresham House, 53 Clarenden Road, Watford
WD17 1LA, United Kingdom

Technical Support

e-mail:	support@maudio.co.uk
tel:(Mac support):	+44 (0)1765 650072
tel: (PC support):	+44 (0)1309 671301

Sales

tel:	+44 (0)1923 204010
fax:	+44 (0)1923 204039

Web www.maudio.co.uk

M-Audio France
Floor 6, Gresham House, 53 Clarenden Road, Watford
WD17 1LA, United Kingdom

Renseignements Commerciaux

tel :	0 810 001 105
e-mail :	info@m-audio.fr

Assistance Technique

PC :	0 820 000 731
MAC :	0 820 391 191

Assistance Technique

e-mail :	support@m-audio.fr mac@m-audio.fr
fax :	+33 (0)1 72 72 90 52

Site Web www.m-audio.fr

M-Audio Germany
Kuhallmand 34, D-74613 Ohringen, Germany

Technical Support

e-mail:	support@m-audio.de
tel	+49 (0)7941 - 9870030
fax:	+49 (0)7941 98 70070

Sales

e-mail:	info@m-audio.de
tel:	+49 (0)7941 98 7000
fax:	+49 (0)7941 98 70070

Web www.m-audio.de

M-Audio Canada
1400 St-Jean Baptiste Ave. #150, Quebec City,
Quebec G2E 5B7, Canada

Technical Support

e-mail:	techcanada@m-audio.com
phone:	(418) 872-0444
fax:	(418) 872-0034

Sales

e-mail:	infocanada@m-audio.com
phone:	(866) 872-0444
fax:	(418) 872-0034

Web: www.m-audio.ca

M-Audio Japan
アビッドテクノロジー株式会社 | エムオーディオ事業部：〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内 2-18-10
Avid Technology K.K.：2-18-10 Marunouchi, Naka-Ku, Nagoya, Japan 460-0002

カスタマーサポート（Technical Support）

e-mail :	win-support@m-audio.jp
e-mail (Macintosh 環境専用):	mac-support@m-audio.jp
tel :	052-218-0859（10:00~12:00/13:00~17:00）

セールスに関するお問い合わせ（Sales）

e-mail:	info@m-audio.jp
tel:	052-218-3375
fax:	052-218-0875

Web: www.m-audio.jp